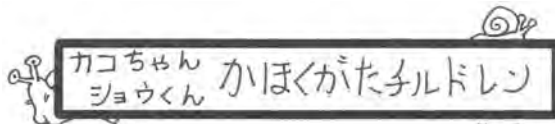


## 第29回 ノトマイマイ



森の中で落ち葉をかき分けていたり、川の土手で草むらをあさっている時に「何をしていますか」と時々声をかけられます。「貝を探しているのですよ」と応えると、たいていの人はいぶかしげな目でこちらをみます。陸にも貝がいるというのは、多くの人には不思議なことです。でも「でんでんむし」「カタツムリ」というと、たいていの人は「確かに貝ですね」と納得するのですが、中にはこちらがふざけていると捉える人もいます。でも「カタツムリ」のことは良く知っていてそのイメージが強いので、こちらが殻の大きさが数ミリしかない微小な貝を探しているのだと気づく人はなかなかいません。

「かたつむり」というと、梅雨の季節にあじさいの葉の上やブロック塀を這っている数cmくらいの殻を持つ比較的大型の生物のイメージがあります。実は、落ち葉の下や水際のヨシ原には、たくさんの小さな貝が棲んでいたりするのですが、目にする機会はなかなかありません。殻の大きさが2mmくらいしかないミジンヤマタニシやケシガイなどの微小貝から数センチにまで成長するクロイワマイマイなどの大型種まで、日本には800種以上の陸の貝が生息するといわれています。

河北潟の周辺で2004年から05年にかけて貝類の調査を行いました(野村・高橋 2006)。その結果、27種の陸の貝が確認されました。いちばん目立った種はクロイワマイマイの地方亜種であるノトマイマイで、河北潟の湖岸から社叢林、民家の庭まで広く見られました。河北潟周辺では、もっともカタツムリのイメージに近い種です。その他、集

落周辺にはコベソマイマイというノトマイマイよりは少しずんぐりした、大きなカタツムリがみられました。殻の大きさが2cmほどの少し小さめのカタツムリであるウスカワマイマイは、畑に良く現れました。野菜を作っている人には害虫(害貝)としてよく知られています。名前の通り、とくに殻の口のところがもろい貝です。ちなみに同じく野菜を食害するナメクジも陸貝の仲間です。ナメクジは殻が退化した貝です。河北潟周辺では4種類のナメクジ類が確認されました。この中には体の中に薄い殻を隠しているチャコウラナメクジのような種もいました。

小さな貝類は、河北潟周辺の社叢林によく見られました。掃き寄せられた落ち葉の下や、林内の木の根元に、ゴマガイやカサガイ、ベッコウマイマイの仲間がみられました。いずれも殻の大きさが1cmに満たない貝です。河北潟らしい貝としてはナガオカモノアラガイが多く確認されました。水際や水辺の草を生息場所としています。(文 高橋 久)